

かみさま
神様、ありがとう！



「何てきれいな お星様なのかしらね、フェリックス？」
うら庭の しばふに ねころびながら、5才の テッサが ネコに
いました。 「見て。キラキラ かがやいてるわ！」

フェリックスは それに こたえるように、頭を かいて、
あくびを しました。

「フェリックス、神様が お星様を 造ったのよ。知ってた？
それだけじゃ ないの。日曜学校の チャールズ先生が
おっしゃってたけど、神様が すべての ものを 造って
くださったの！ だから、その すべてを 神様に 感謝しましょう
って。」

「足元で さいている 花を、父よ、感謝します。」と、
テッサが 言いました。

「しんせんで やわらかい しばふを、父よ、感謝します。
とり 鳥の さえずる 声や、ハチの 飛ぶ 音、
わたしたちが 目に したり 耳に する、すべての すてきな ものを、
天の 父よ、感謝します。」¹

「フェリックスは、何を 感謝してます？」 テッサが ネコに たずねました。

フェリックスは しっぽを ふって、ミャオーと 言いました。

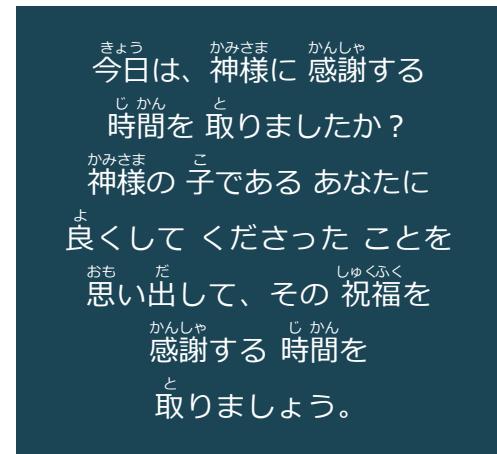
「わたしも、やわらかい しばぶが 好き。」 テッサは クスクス 笑い
ました。

「友だちと 遊ぶのもね。今日は、わたしの たんじょうパーティーに
みんなが 来てくれて、楽しかったわ。家族が いて、家が あって、良かった。」
テッサは うでを 広げて 言いました。「すべての ものを、感謝します！」

フェリックスは うなづくように、前足を なめました。

「テッサ。もう ねる 時間よ！」 家の中から お母さんが よびました。

テッサは フェリックスを だき上げ、毛を なでながら、家の 中に 入りました。
「神様、 すべての ものを 感謝します！」



1 伝統的な 賛美歌 「父よ、感謝します」より。
作曲者不明。ラルフ・ワルド・エマーソン作とも
いわれている。

